

急性虫垂炎のために手術経験のある 患者さんまたはご家族の方へ (臨床研究に対するご協力のお願い)

獨協医科大学埼玉医療センター小児外科疾患治療センターでは、上記の病気で受診された方の診療情報（カルテ情報）を使用して臨床研究を実施いたしております。本研究に該当する可能性のある方のご協力をお願いいたします。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。また、ご協力いただけない場合であっても今後の治療に不利益を受けることはございません。

本研究への協力を望まれない患者さんおよび本研究の詳しい内容（実施計画書・関連資料等）について閲覧になりたい方は、下記の【問い合わせ先】までご連絡をお願いします。

【研究課題名】

急性虫垂炎にドレーン挿入が必要でないことの後方視的検討
～最近4年間での当科での経験から～

【研究の背景と目的】

腹膜炎を伴う高度の炎症がある急性虫垂炎の患者さんを内視鏡的に手術する場合、お腹の中にチューブ（ドレーン）を入れて体外へ膿を排出させることを慣習的に行なっている病院があります。ドレーンは、手術後に患者さんに身体的・精神的苦痛を与えていることから、不必要なドレーン挿入は避けるべきだと考えて、当科ではドレーン挿入を行っていません。それでも、術後にお腹に膿がたまって外科的処置を必要としたのはこの4年では皆無でした。

本研究は、ドレーンを挿入しないで手術を行った患者さんのカルテを使用して術後合併症の有無について検討し、ドレーン挿入の不必要性を検証することを目的としています。

【対象となる方】

2019年1月1日から2022年12月31日までに、当科でドレーンを挿入しないで手術を受けた急性虫垂炎の患者さんが対象です。

【使用する検体・診療情報】

使用する検体や診療情報は以下のとおりです。

年齢、性別、身体所見、症状発生から入院までの時間、入院期間、術前検査結果、手術所見術中および術後合併症の有無、抗生剤投与期間と種類、
なお、収集したデータは、研究責任者のもと適切に保管・管理致します。

【研究期間と参加予定人数】

この研究は、当院臨床研究倫理審査委員会承認後、病院長の許可日（2023年8月29日）から2024年3月31日まで実施され、114名の患者さんが対象となっております。

【個人情報の保護】

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを特定出来る個人情報は削除し、収集されたデータは、個人が特定できないよう通し番号で匿名化されたのち解析を行います。

また、使用した検体やカルテ情報を廃棄する際も個人情報を削除して廃棄いたします。

【結果の公表】

この研究の研究成果は日本小児外科学会秋季シンポジウムで発表予定ですが、その際も患者さんを特定できる個人情報は公表いたしません。

この研究の研究成果は小児外科学会雑誌へ投稿される予定ですが、その際も患者さんを特定できる個人情報は公表いたしません。

【研究責任者】

獨協医科大学埼玉医療センター 小児外科疾患治療センター 土岡 丘（特任教授）

【問い合わせ先】

埼玉県越谷市南越谷 2-1-50

獨協医科大学埼玉医療センター 小児外科疾患治療センター 担当者：藤野 順子（非常勤講師）

電話番号：048-965-1034（医局直通）受付時間 9:00～16:30

以上